

令和2年度障がい者用スポーツ用具の開発について

1 目的

区内企業14社が車いすメーカーと協力して「車いすバスケットボール用車いす」の製品開発へ取り組み、東京2020パラリンピック参加選手による採用を目指すことで、区内製造業の高度な技術力に加えて、対応力、提案力などを広く周知する。

あわせて、区内企業が羽田イノベーションシティなどを活用して、スポーツ産業を含むライフサイエンス・ヘルスケア産業などの新分野へ参入する動きを加速する。

2 令和2年度の実績

キャスター関連部品（フォーク、シャフト）の開発を行い、日本代表候補による実証テスト、ヒアリング等の協力のもと改良を重ねた。

その結果、複数の日本代表候補選手及びチームスタッフから非常に高い評価をいただき、パラリンピックに向けて継続して使用していただいているとともに、本事業で開発した部品が他競技団体からも発注があるなど、新分野の市場参入のきっかけになった。

3 事業終了後の課題と今後の展望

今回、区内企業が新分野に参入するにあたっては当該分野での実績のある企業等との連携を認識したが、これを区内企業に波及させるためには、さらなる開発力の向上と多様な主体等とより多くの接点を持つことが必要であることが確認できた。

そのため、事業終了後も引き続き区内企業の開発力向上と企業間連携の促進を図り、スポーツ産業分野を含む福祉・介護などの次世代ヘルスケア分野への参入、受注獲得につなげていく。

(参考) 令和2年度の取り組みの様子



最終製品（フォーク、シャフト）



前年度までに開発した車いすの展示
令和2年12月 六郷特別出張所
令和3年1月 羽田特別出張所



代表選手へ向けた応援VTR